

WHO ファクトシート

サル痘

Monkeypox

2016年11月

重要な事実

- ・サル痘は、主として熱帯雨林に近い中央アフリカや西アフリカの遠隔地で発生する珍しい疾病である。
- ・サル痘ウイルスは、ヒトにとって致命的な疾病につながる可能性がある。既に根絶されたヒトの天然痘に似ているが、ずっと症状が軽い。
- ・サル痘ウイルスは、様々な野生動物から人々に伝播するが、限定的にはヒト-ヒト感染によっても感染拡大する。
- ・典型的には、サル痘流行時の死亡率は1%から10%であり、その死亡のほとんどは若い年齢層で起こっていた。
- ・以前行われていた天然痘のワクチン接種はサル痘の予防においても有効性が高かったが、サル痘そのものに対する有効な治療法やワクチンは存在しない。

本件ファクトシートについて、厚生労働省検疫所ホームページの[こちら](#)では全文の日本語訳が公開されていますので、ご参照下さい

© World Health Organization

この文章は、日本WHO協会がWHOのメディアセンターより発信されているファクトシートのキーファクト部分について、2014年3月にWHO本部より付与された翻訳権に基づき作成したものです。

ファクトシートには、訳出部分以外にも当該案件に関する基本的情報や詳細情報へのリンク先などが示されていますし、また最新事情に合わせて頻繁に見直しが行われますので、更新日時の確認を含めWHOホームページでの原文をご確認ください。

Monkeypox

ファクトシート原文は [こちら](#)